

平成30年 面山禪師250回大遠忌記念企画

永福庵所蔵 面山禪師法物展

日 時： 平成28年9月5日（月）・6日（火）

公開時間： 両日とも 10時～16時

会 場： 港区 青松寺【貝塚ホール】

同時企画

◆特別記念講演◆

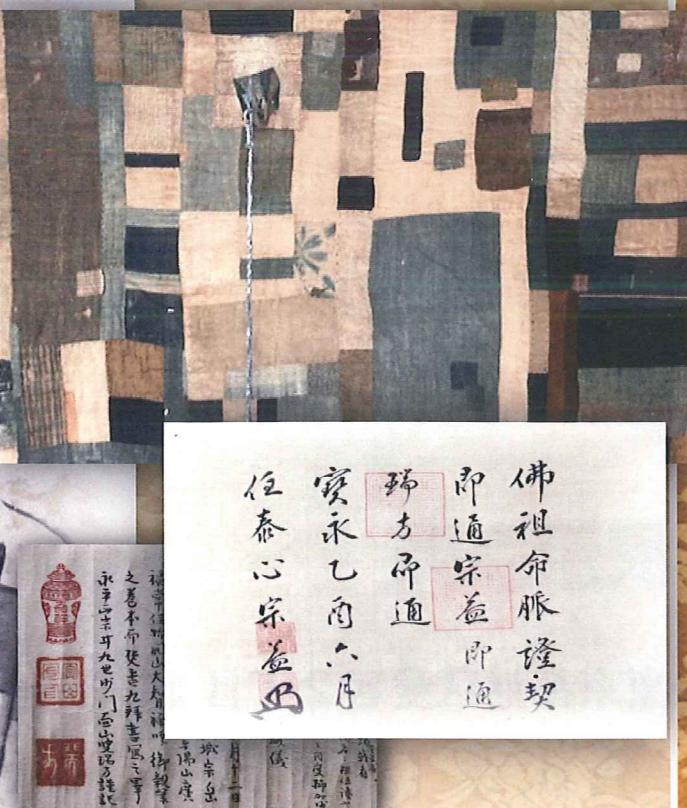
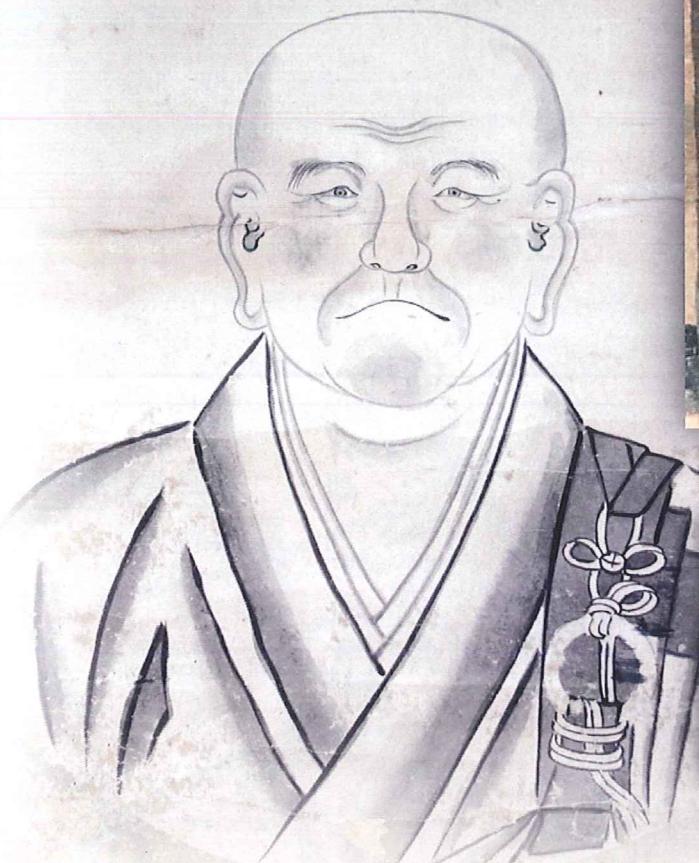
講 師：愛知学院大学講師 菅原研州師

『永福庵所蔵 面祖の法物について』

日 時：9月5日（月）14時より同ホールにて

詳しくは裏面をご覧下さい

入場無料



※お問い合わせ先

東京都台東区下谷2-6-2 正洞院内

永福会事務局 戸谷 まで

TEL 090-1764-0783

主催：面山禪師慶讚 永福会

● 永福庵について

福井県小浜市奥田縄にある曹洞宗寺院。山号は無量寿山。吉祥林とも称する。本寺は小浜市空印寺。面山禪師の隠居寺として寛保元年（1741）面山禪師59歳の時に開かれた。もとは遠敷郡上野村（現在の小浜市上野）に建てられたものが、明治16年（1883）現在の場所に移築された。現在もなお数多くの面山禪師、またその弟子たちに関する法物を有する。

● 面山瑞方禪師 略歴

江戸時代日本曹洞宗が輩出した最大の学僧。面山（めんざん）は号で、名は瑞方（ずいほう）。天和3年（1683）11月5日、肥後国（現在の熊本県）に生まれる。16歳で肥後國流長院の遼雲和尚について出家。21歳になると江戸芝の青松寺に滞在しながら、円山道白・徳翁良高などの教えを聞いた。師は損翁宗益師。宝永2年（1705）に嗣法する。享保3年（1718）肥後国の禅定寺に晋住し、布教教化に努め、享保14年（1729）には若狭国の空印寺に転住。寛保元年（1741）の秋に、自らの法席を瞎堂普觀に譲ると、永福庵に隠居したが、その後も諸方の求めに応じては、經典や祖錄の提唱を行い、正統なる曹洞宗学の宣揚に尽力された。明和6年（1769）9月17日、建仁寺の西来院にて示寂。遺嘱により同じ京都府内にある宗仙寺の寿昌庵にご遺体が移されてより計が発せられる。世寿87歳。法を嗣いだ弟子は27人を数える。来たる平成30年（2018）には250回忌を迎えることとなる。

● 講師紹介



◆菅原研州（すがわら・けんしゅう）

愛知学院大学講師。宮城県栗原市城国寺副住職。昭和50年（1975）、宮城県仙台市生まれ。駒澤大学仏教学部を卒業後、同大学大学院仏教学専攻博士後期課程を満期退学。曹洞宗総合研究センター研究員・専任研究員を経て現職。専攻は、曹洞宗学。著書：『道元禪師伝』（曹洞宗宗務庁）、『道元読み解き事典』（共著、柏書房）など

展示会場

東京都港区愛宕2丁目4-7

青松寺【貝塚ホール】

- * 地下鉄常磐線「神谷町」駅3番出口より徒歩約8分
- * 都営三田線「御成門」駅A5出口より徒歩約5分。

